

彙報

眞宗學會

○十月九日 聞思會

「教團について」と題して討議
終つて懸案の北陸旅行についての計畫
を發表する。

○十一月一・二・三日

北陸方面見學旅行

一日 瑞泉寺・善徳寺・本泉寺・金澤
御坊

二日 本誓寺・吉崎御坊

三日 專照寺・永平寺

引率 藤原教授、參加二十五名

○十一月二十一日 例会

一、化巻に於ける元仁元年考

日野教授

○十一月二十五日 聞思會

「宗教生活と政治活動」について討議

佛敎學會

○十月二十九日 於會議室

一、横超教授學位授與祝賀會

一、佐々木(教) 助教渡タイ壯行會
一、研究發表

「世親淨土論に於ける十地經的要
素」 長谷岡一也氏

山口、舟橋、横超、山田、佐々木
各教授、並びに白土助手以下學生
五十四名出席。

○十二月十日 於會議室

研究發表會

一、地論宗の心識説と十地經論

——一心の非如來藏の性格——

鍵主良敬氏

一、臨濟における般若思想について

福島謙一氏

山口、舟橋、佐々木(現)、安井、山

田、横超、富貴原各教授、並びに白土

助手以下學生三十名出席。

佛敎史學會

○吉野高野方面研究旅行

十月一日——十月二日(一泊二日)

第一日 七時十八分京都驛出發

吉野神宮、勝手神社、大日寺、櫻本

房、如意輪寺、吉水神社、藏王堂見

學、高野山龍光院(泊)。

第二日 根本大塔、金堂、靈寶館、金

剛三昧院、金剛峯寺、奥野院、粉河

寺、大傳法院(根來寺)等を見學し

た後、夕刻大阪驛にて解散。

指導藤島教授 參加者北西助教授他

學生二十名

○奈良へ寶物展見學

十月二十一日 指導引率藤島教授、北

西、柏原各助教授、學生二十名參加、

聖徳太子奉讀展、正倉院展見學

○史跡踏査 伏見稻荷方面

十月二十七日 指導 北西助教授、參

加學生十九名

稻荷神社、寶塔院、瑞光寺、安樂寺院

茂森神社見學

○佛敎史學會大會

十二月十三日午後一時 於一番教室

「北野天神繪卷について」

關西大學教授 源 豐宗

「關東舊跡寺院寺寶調查團について」

藤島教授

「清朝初期に於けるチベット・ネパ

ル史料について」 稻葉教授

參加者 源講師、藤島、野上、稻葉各

教授、北西、柏原兩助教授、一般學

生二十五名。尙大會終了後五時より
應接室にて茶話會をもつ。

◇ 哲學倫理學會

○十一月八日(例會)

「ヤコブ・ペーメに於ける七つの性」
阿部助教

○十二月十三日(大會)

「愛について」京大教授 島 芳夫氏

◇ 社會學會

○十一月一日(例會)

熊本縣須惠村の實態調査報告
白井二尙講師
宅野 壽氏

○十一月八日(ハイキング)

清瀧、嵐山方面

◇ 教育學會

○十一月一日(例會)於應接室

一、非行少年と累犯者との性格と知能
の研究 竹内 脩
一、組織キャンプにおけるリーダーの
在り方 小谷由雄

一、小學校における視聽覺教育

中島敬城

○十一月二十二日(大會)於會議室

「歐米をまわつて」

○十二月十日(例會)於應接室

一、H・リードの教育思想について
武本常宣

一、生活指導を中心とした精神薄弱児
の研究 武部武義

◇ 國史學會

○史蹟踏査、河内方面、十月二十四日、
觀心寺、金剛寺を見學。五來教授、柏
原助教引率學生廿名參加。

○本年度大會十一月卅日(日)

研究發表會、午前十時半

法進について 佐久間 龍

國分寺創建について 堅田 修

思想家としての藤樹 禿 信雄

古事記から見た姓について山香 茂

公開講演 午後一時 柏原助教

親鸞における末法觀 佐々木求巳氏

本願寺の宮廷接近と蓮師一家内室の地
位

石山本願寺址について 山根徳太郎氏
會後、講師及び先輩多數の出席のもと
に、なごやかに懇親座談會を催す。

○史蹟踏査 十二月七日(日)三尾方面、
史學會主催で、仁和寺、神護寺、高山
寺を見學。

◇ 大谷史學會

○研究發表會。十二月六日(土)午後一時
於第十三教室

一、宋の徽宗と道教 安藤智信

一、法然上人門下に於ける信空の地位
——特に圓頓戒相承について——

一、六朝の女性と佛教 魚津哲也

一、卒塔婆に表現された 木島孝文

一、梵字曼荼羅の研究 齋藤彦松

一、北魏王朝佛教史論——胡太后時代を中
心として—— 諏訪義純

一、中世初期における巡禮 本多慧見

一、丹波に於ける眞宗教團の成立 吉田 清

一、阿豆河庄について 和多昭夫

會後、會議室において質疑應答座談會
を催す。

○合同史蹟踏査 十二月七日(日)國史、東洋史、佛教史三學會合同で、高雄方面に史蹟踏査を行う。仁和寺神護寺、高山寺を順次見學。神護寺において晝食を共に懇親會を催す。

◇ 國文學會

○史蹟踏査、吉野・高野方面、十月一、二日

一日、畝傍・橿原・吉野を見學。午後五時高野に到着、天徳院にて一泊、二日、高野山を見學の後、午後一時當地にて解散。

多屋教授、山本助教授、渡邊助手心得以下學生廿六名參加。

なお、出發に先立つて、九月三十日、四十二教室に於て、吉野・高野に關する史蹟文學などについての説明會がひられた。

○卒業論文中間發表表、十一月五日、於四十二教室。發表者九名

◇ 東洋史學會

○東洋史學卒論中間發表會

第一回 十一月六日(木)午後三時

時 於第四教室

宋の太宗について

佐々木映正

隋末の農民起義

西 忠一

明の兵制について

黑崎 浩

第二回 十一月十二日(水)午後三時

於會議室

高宗時代に於ける權場について

中村信之

唐代の土地問題―特に均田制について―

關野 睦

漢代帝室財政と商稅

石塚孝行

第三回 十一月十九日(水)午後三時

より 於會議室

隋末農民起義について(再)

西 忠一

漢の武帝について

木戸 寬

元末の内亂と白蓮教について

徳野智學

北魏の均田制について

本庄堅一

出席者 野上教授、研究室員學生二十數名

○東洋史、支那學會講演會

十一月二十四日(月)午後三時より

於會議室

文獻目錄から見た六朝の歴史意識

京大教授文學博士 重澤俊郎氏
野上、斯波兩教授の御出席を得て、盛會裡に終る。講演終了後、講師をかこんで懇親茶話會をもつ。
參加者 研究室員並びに學生三十五名